

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	小倉 諒馬	学校名	大阪市立長原小学校
実施学年	小学校 第2学年	教科	国語科
単元名	ビーバーの大工事		

《学びを深めたいポイント》

本単元は、小学校学習指導要領国語科第1学年及び2学年、「C 読むこと」の指導事項「イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」「エ 文書の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。」の内容を受けて設定したもので、学習指導要領の「C 読むこと」の言語活動例(2)「ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと」をもとに、本を読み、調べたことからクイズを作るという課題を設定している。問題や答えを考えるために文章を読むという活動を設定し、文章の中の大事な言葉や文を見つけ、調べたことについてまとめることができることをねらいとしている。

DVD やインターネットなどで動物に関する動画を視聴して、動物に対して興味をもち、学習の最後には、「どうぶつひみつクイズ」を作り、1年生に答えてもらうという学習課題を設定する。その学習課題に向けて、本文の読み取りを進め、教材文をもとにクイズの作り方を学習する。並行読書をしている本から「問題」「答え」を見つけ、「クイズ」を作っていく。

先の見通しをもって学習を進めていくことで、教科書の本文の学習においてもクイズ作りを意識するようになり、学びを深めたい部分である並行読書の本から自分でクイズの「問題」「答え」となる部分を考えるときにスムーズに見つけることができるのではないかと考える。

《SKYMENU 活用のポイント》

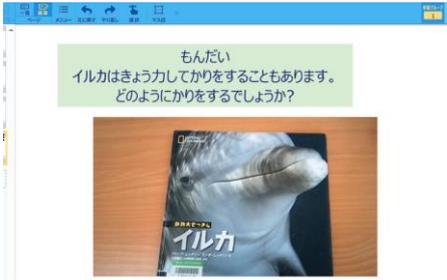
ICT 機器を扱った経験が少ない児童もいるため、小学校2年生でも活用しやすい SKYMENU を活用する。「発表ノート」を使用して、クイズ作りのスライドを作成する。文字の大きさや色を変えたり、画像を入れたり各々が工夫してクイズ作りに取り組む。「発表ノート」を使用することで、動物の写真や動画なども添付することができ、相手に分かりやすいクイズを作る。

また、「発表ノート」にはグループワークの機能があり、班ごとに動物を分けて活動する際に、一つの発表ノートに対して、複数の学習者機から同時に編集することができる。役割分担しながら全員が参加して発表資料を作成でき、班員のページの作業状況が反映されるので前後のページを確認でき、つながりを意識しながらクイズ作りに取り組むことができる。

最終的には、班ごとにスライドショー機能を使用してクイズを発表する。そして、授業の感想を気づきメモに入力し、交流する。

(※入力については、2年生ではローマ字が未習のため、フリック入力もしくは手書き入力を使用する。)

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	<p>1 学習内容と本時の授業の流れを知り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>また、教科書の内容で作成したクイズを提示し、クイズの作り方について振り返る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容で作成したクイズは、発表ノートを使用し、まとめておく。 発表ノートで作成するスライドをイメージできるようにする。
<p>㊦ えらんだ動物のひみつクイズを作ろう。</p>			
展開	<p>2 クイズを発表ノートに入力し、どうぶつのはみつクイズを作る。</p> <p>3 動物ごとにグループワークを開始し、お互いに進捗が分かるようにし、アドバイスをし合ってクイズ作りを行う。</p> <p>4 動物の写真を入れたり、作ったクイズの根拠となる部分を画像として挿入したりするようになる。</p>	  	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容で作成したクイズと同じように作っていくことを伝える。 本から見つけるときには、主語と述語の関係に気をつけて探すようにする。 答えにくい難しい内容については3択クイズにしたり、ヒントを入れたりするようにする。
まとめ	<p>5 今日の学習のふり返りを気づきメモに入力する。</p> <p>6 次回のクイズ発表会について予告する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> クイズを作っているときに気づいたことや、次回のクイズ発表会までにしたいこと、困っていることなどを入力する。 →気づきメモ上でコメントに対して返信する。

《実践を振り返って》

- ・画用紙などを書いてクイズを作る場合は、文字を間違えてしまったり、机を汚してしまったり、写真を入れる場合には都度印刷しなければならないなどの問題があるが、SKYMENU Cloud を使用してタブレット上で行うとその問題はなくなり、文字の間違いなどは瞬時に修正したり、写真もその場で撮影して貼り付けたりできるので、クイズの作成をスムーズに行うことができた。
- ・基本的には並行読書した書籍を使ってクイズ作りを行ったが、書籍に分かりやすい写真がなかったときにインターネットを使って写真や図を検索して用いることができた。
- ・タブレットを用いて授業を行うと、子どもたちはとても興味をもって、意欲的にクイズ作りに参加していたように思う。また、動物ごとにグループ分けをして、そのグループでスライドを作るため、発表ノートのグループワーク機能を活用して友だちの進捗状況を確認しつつ、声をかけ合って協力してクイズ作りに取り組んでいた。
- ・並行読書として市立図書館から書籍の長期貸し出しした資料を使ってクイズ作りをした。借りた本に書き込んだり、線を引いたりすることはできないため困ることがあったが、タブレットを使用することで、写真を撮影して、ペンで書き込むことができたため、子どもたちも資料が分からなくなることもなく、さらに教師側も子どもが作ったクイズの添削がしやすかった。